

黒川のチョウ

木下 修一

1. はじめに

黒川地域は川西市北部の妙見ケーブルと一庫ダムに挟まれた地域で、いわゆる北摂地方全般で見られる低山と谷間からなる地域である。この地域では、東西を流れる河川(黒川)とその周辺に広がる水田と集落、およびクヌギを主体とした二次林、栗林など典型的な里山風景が見られる。山道沿いには良く管理された台場クヌギが残されており、田圃の畦や休耕田には多種の雑草が生えている。こうした環境がこの地域の多様な昆虫の発生とつながっていると考えられる。

筆者は昨年この黒川地域の昆虫を調査をする機会を得た。調査は1996年4月から約1年間行った。その結果とその後の調査をまとめたので、今回と次回に分けて発表したいと思う。

2. 調査方法

大体午前10時頃から午後2時頃までの日中に黒川地域の山道を歩き、目視によりチョウやトンポのおおまかな個体数調査を行った。調査は4月から10月の間の大体月2-3回のペースで行った。

3. 調査結果

黒川地域でほぼ同じ地区を同じ時間帯に歩き、チョウをカウントして得たおおまかな個体数調査結果を表1に示す。北摂では偶産種を除いて95種が記録されているが¹⁾⁹⁾、今回調査期間内に観察ないし採集された種類数は、同時に調査された福原 整氏、近藤伸一氏の報告も含め合計7科62種であった(表2)。観察された種類はすべて北摂ですでに報告されている種類で、これらは同時期の箕面市止々呂美地域での観察結果⁷⁾ともほぼ一致し、黒川地域が北摂の中では一般的な蝶の分布を見せていることを示している。止々呂美地域と比較をすると、個体数、種類数のいずれをとっても少なく、これは上記の全般的な印象の所でも述べ

られたとおり、広い水田の存在と水田の回り及び山中の栗林などでのかなり頻繁な下草の刈り込みがなされることにより、吸蜜される植物が少ないことが原因の一つとしてあげられる。全般的にアゲハチョウ科の個体数が少ないことが目に付いたが、食草となるべきミカン科、セリ科、クスノキ科などの植物が少ないことに起因しているのかもしれない。

「北摂の蝶」¹⁾に局所的、あるいは、個体数が少ないと記載されている種で今回観察された種は、(アゲハチョウ科) オナガアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ

(シロチョウ科) エゾスジグロシロチョウ、スジボソヤマキチョウ

(シジミチョウ科) ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、トラフシジミ

(タテハチョウ科) オオウラギンスジヒョウモン、クモガタヒョウモン、ツマグロヒョウモン、メスグロヒョウモン、ホシミスジ、サカハチチョウ、オオムラサキ、スミナガシ、ヒメアカタテハ

(ジャノメチョウ科) ヤマキマダラヒカゲ

(セセリチョウ科) アオバセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリ、チャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ

である。逆に、普遍的で個体数が多いないし普通とされている種で観測されなかったものはなく、この意味でも黒川地域が蝶に関する限り北摂地方に一般的な分布を示しているといつてよいだろう。

その他、同時に調査された福原 整氏からは、越冬幼虫の観察で、オオムラサキ、ゴマダラチョウの幼虫はかなり確認できたが、ミスジチョウの幼虫は確認できなかったとの報告があった。またキマダラモドキとクロヒカゲモドキは黒川地域以外の上杉尾根でも探索したが、姿をみることができなかったそうである。

表1 黒川のチョウ (個体数調査)

年 月 日	1997										1997														
	4:27	4:28	5:12	5:18	5:26	6:2	6:16	6:30	7:6	7:13	7:21	8:4	8:16	8:31	9:7	9:23	10:6	10:20	2:9	3:22	4:13				
科名	種名																								
1	アゲハチョウ	キアゲハ	1																						
2		アゲハチョウ	1	+	+			1	1	1	2		1	2-3	2-3										
3		オオアゲハ			2																				
4		クロアゲハ			2-5-6	2	+	1						1	1-2										
5		モンキアゲハ						2-2-3	1					1		1									
6		カラスアゲハ						2-3	2-3	1	1														
7		アオスジアゲハ				1	+	2-3	2		1				1	2									
8	シロチョウ	キチョウ	++	++		1-2-3	1	3-2-3	2-3	2-3	2-2-3	5-6	3-4	+	2	+	++	2-3				+			
9		スジバシロヤマキチョウ																4-5							
10		ツマキチョウ	1	+	5-6																	+			
11		モンキチョウ	+	+	++	+		5-6	2-3	2-3				2-3	1-2	+						+			
12		モンシロチョウ	++	++	++	++	+	+	++	++	++	+	2-3	2-3	++	1-2	++	++	+			1	++		
13		スジグロシロチョウ	+	+	5-6	+			+									4-5	3-4			1	+		
14		エノスジグロシロチョウ	?	?	?	?				2-3	++	+	+	++	2-3	+	5-6	3-4	2-3	1			+		
15	シジミチョウ	ムラサキシジミ									2	1	1	2-3									1		
16		ミズイロオナジシジミ								1															
17		ウラナミアカシジミ								1															
18		オオミドリシジミ									1														
19		トラフシジミ		+	1	+	1	2		1	1												1		
20		コノバメ			2-3																		1		
21		ベニシジミ	+	+	++	++	++	++	++	++	++	++	+	+	3-4	5-6	5-6	++	+				++		
22		ウラナシジミ																1	1						
23		ヤマトシジミ			1	++	++	++		++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++			1		
24		ツバメシジミ				1				3-4	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++			2		
25		ルリシジミ	+	+						2-3	2-3	+	3-4	2	1	1-2							1		
26		ウラギンシジミ			1					2	1	2		1-3-4	2	1	2-4-5	+	3-4						
27	テングチョウ	テングチョウ	++	++	1	1	+																3-4		
28	タテハチョウ	ミドリヒメウモン																					2-3	2-3	
29		クモガタヒメウモン						2																	
30		メスグロヒメウモン								1	2-3														
31		ツマグロヒメウモン																					1		
32		イチモンジチョウ								2-3	2-3	2	1			1	1								
33		アサマイチモンジ								1	2-3	2	1-2	1-2	2	1									
34		コニスジ			2	2-5-6	5-6	4-5	2	2	2-5-6	2-3	5-6	2-3	2-3	4-5	1								
35		ホシミスジ							2	1															
36		オオカバネチョウ			1																				
37		キタテハ	1	1		1				1	1		1	1	1	1				+	1		3		
38		アカタテハ		5-6		2-3	1			1	2	1	1	3-4	2					+	2-3		2		
39		ヒメアカタテハ																					1		
40		ルリタテハ			1										2	1									
41		スズナガシ																							
42		オオムラサキ																							
43	ジャノメチョウ	ヒメウラナミジャノメ			+	++	++	++	+	2-3	2-3	2-3	2-3	5-6	++	5-6	+	2-3							
44		ジャノメチョウ																							
45		ヒカゲチョウ																							
46		クロヒカゲ																							
47		ヤマキマダラヒカゲ																							
48		サトキマダラヒカゲ			1	2	++	++	4-5														+	++	3-4
49		ヒメジャノメ																							
50		コジャノメ			3-4	2-3	2-3	3-4		2-3	2-3	1-2		2-3		5-6									
51	セセリチョウ	アオバセセリ			1	1																			
52		ダイミョウセセリ																							
53		ミヤマセセリ			5-6	2	+																	3	
54		ホソバセセリ																							
55		コチヤバセセリ			1	+	++	++	2-3																
56		キマダラセセリ										1	1	++	3-4										
57		オオチヤバセセリ									++	++	+	3-4	3-4					+	++	2-3	2-3		
58		チヤバセセリ																							
59		イチモンジセセリ						2																	
		種類数	8:	17:	17:	22:	21:	21:	24:	25:	26:	19:	23:	22:	21:	29:	21:	25:	20:	11:	0:	1:	17:		

注1 数字は個体数、+は5-10頭、++は10頭以上を表す。

表2 黒川のチョウ (月別)

月	種名	個体数										黒川	北摂
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
1	アゲハチョウ	●			○					○	○	C	B
2	アゲハチョウ				○	●	●		○	○	○	B	B
3	ホトタテアゲハ											C	B
4	クロアゲハ				○	○	●	○		○	○	B	B
5	モンキアゲハ					○	○	○		○	○	B	C
6	カラスアゲハ					○	○	○				B	B
7	アオスジアゲハ					○	○	○		○	○	B	B
8	シロチョウ				●	●	○	○	○	○	○	A	A
9	スジボノヤマトキチョウ				○						○	C	B
10	フマキチョウ				○	○	○					B	B
11	モンキチョウ				○	○	○	○	○	○	○	A	B
12	モンシロチョウ				○	○	○	○	○	○	○	A	A
13	スジグロシロチョウ				○	○	○	○	○	○	○	A	B
14	エンシヨクシロチョウ				○	○	○	○	○	○	○	A	B
15	シジミチョウ				○							B	B
16	ミズイロホナガシジミ							○				C	B
17	ウラナミアゲハシジミ							○				C	B
18	ホホミドリシジミ							○				C	C
19	トラフシジミ				○	○	○	○	○			B	C
20	コノハハシ				○	○						C	B
21	ベニシジミ				○	○	○	○	○	○	○	A	A
22	ウラナミシジミ										○	C	B
23	ヤマノシジミ				○	○	○	○	○	○	○	A	A
24	ツバメシジミ						○	○	○	○	○	A	B
25	ルリシジミ				○	○	○	○	○	○	○	B	B
26	ウラギンシジミ										○	B	B
27	テンダチョウ				○	○	○	○	○			B	B
28	クサキチョウ										○	C	C
29	ミドリキチョウモン										○	C	B
30	クサキチョウモン							○	○			C	C
31	メスグロキチョウモン							○	○			C	B
32	アサギキチョウモン										○	C	C
33	イサキシジミ							○	○	○	○	B	B
34	アサマイチモンジ							○	○	○	○	B	B
35	コノハハシ							○	○	○	○	A	B
36	ホシホシ							○	○	○	○	C	C
37	オオムラサキ							○	○	○	○	C	B
38	キタテハ				○	○	○	○	○	○	○	B	B
39	アゲハ				○	○	○	○	○	○	○	B	B
40	ホムカゲ										○	C	C
41	ルリキタテハ										○	C	B
42	スミナガシ											C	C
43	ゴマダラチョウ				△							C	C
44	オオムラサキ											C	C
45	ツバメチョウ							○	○	○	○	A	B
46	ツバメチョウ							○	○	○	○	A	B
47	クサキチョウ							○	○	○	○	B	B
48	クサキチョウ							○	○	○	○	B	B
49	ヤマノシジミ							○	○	○	○	C	C
50	オオムラサキ							○	○	○	○	A	B
51	ホムカゲ							○	○	○	○	B	B
52	コノハハシ							○	○	○	○	B	B
53	オオムラサキ							○	○	○	○	C	C
54	オオムラサキ							○	○	○	○	B	B
55	オオムラサキ							○	○	○	○	B	B
56	オオムラサキ							○	○	○	○	C	B
57	オオムラサキ							○	○	○	○	A	A
58	オオムラサキ							○	○	○	○	B	C
59	オオムラサキ							○	○	○	○	A	B
60	オオムラサキ							○	○	○	○	B	C
61	オオムラサキ							○	○	○	○	C	C
62	イサキシジミ							○	○	○	○	B	B

注1 今回の筆者の調査結果に、同時に調査された福原整氏、近藤伸一氏の調査結果を加えて作成した。●は成虫の個体数が「非常に多い」、◎は「多い」、○は「少ない」、△は幼虫の確認を示す。

注2 個体数の「北摂」の欄は「北摂の蝶」¹⁾による。個体数は、文献中の「多い」をA、「普通」をB、「少ない」をCの3段階に示した。個体数の「黒川」は黒川地域での調査結果を示す。今回の調査での確認個体数がおおよそ30頭以上をA、5から30頭程度をB、5頭以下をCとした。しかし、これらは調査した地域や調査にかかった時間などによるので、個体数の絶対値についてはおおよその目安として理解していただきたい。

4. 注目すべき種

アオバセセリ 「北摂の蝶」¹⁾によれば、アオバセセリは北摂地方においては採集記録が少なく、その産地も限定されているようである。また、溪流沿いあるいは山頂付近で目撃されることが多いとある。今回は5月と8月に目撃された。春に見られた個体のうち1頭は農道沿いの土手に止まり、田圃の上を飛び回って、また土手の草の葉裏にとまるという行動をしており、もう1頭は畑地のネギボウズに吸蜜していたもので、いずれも開けた畑近くで観察されたものである。「北摂の蝶」によれば、1980年代半ばからの個体数減少傾向が明らかで、三草山ではテリトリーを張る個体がほとんど見られなくなったとの記載がある。最近の北摂地方での報告では、能勢町三草山、能勢町横尾山、豊能町初谷、神戸市道場、三田市本庄などが産地としてあげられている。

エソスジグロシロチョウ 近縁の種との区別が日本産蝶類の中でもっとも困難な種の一つである。近縁のスジグロシロチョウとは夏型の♂においてもっとも区別がつけやすく、全般に白っぽく、♂前翅表面第3室の黒紋が円形であることで区別がつけられる^{10,11)}。北海道から九州まで広く分布するが、局地的でスジグロシロチョウより山地寄りを好む。また、日向を好むため、やや日陰を好むスジグロシロチョウとは棲み分けているが、完全に混棲しているところもあり、そのような所では中間的な個体も見られるという。発生は年2-3回で秋には余り見られないとの報告があり、年4-5回のスジグロシロチョウと対比できる。

北摂地方の分布について大阪市立自然史博物館の「北摂の自然」⁴⁾に詳しく述べられているが、それによると、両者の食草の違いと密接に結びついているようである。すなわち、スジグロシロチョウはタネツケバナ、オオバタネツケバナ、ニシノオオタネツケバナ、イヌガラシを主な食草としているのに対し、エソスジグロシロチョウがハクサンハタザオを食草としているからであるとされている。したがって、スジグロシロチョウは比較的山よりの沢べりなどに普通にいるのに対し、エソスジグロシロチョウはハクサンハタザオの分布と

非常に密接な関係が認められる。ハクサンハタザオは北摂では低山地で見られるが、分布は山地よりにやや局地的で、これがエソスジグロシロチョウの分布の局地性と関係があると見られている。

なお、この両者は、箕面市止々呂美地域では、上止々呂美の谷筋でエソスジグロシロチョウが、下止々呂美でスジグロシロチョウが棲息し、棲み分けがなされているようである。黒川地域では夏に見られる個体がほぼエソスジグロシロチョウであることが分かった。また、9月23日の調査ではかなり痛んだエソスジグロシロチョウがいたのに対し、近くに大型で新鮮なスジグロシロチョウが見られ、時期的に発生時期が少しずれるものの両者は黒川地域では混棲しているものと見られる。また、同日の観察ではエソスジグロシロチョウの♀がハクサンハタザオに産卵している姿もみられた。黒川地域では、黒川沿いおよび支流沿いにハクサンハタザオが群生しており、この意味でもエソスジグロシロチョウの発生に都合のよい環境にあるといえる。なお、春に多く発生した個体については詳しい調査を行なわなかったのが特に残念であるが、「宝塚の昆虫I」²⁾によれば、能勢妙見初谷では両者が混棲しているとの記述があることなどから今後の調査が必要と思われる。

ヤマキマダラヒカゲ 高橋真弓著「チョウ」築地番館(1979)にそれまでキマダラヒカゲとされていた個体に2種類あることを発見した経緯が詳しくのっているチョウである。幼虫において差異ははっきりしているが、成虫ではヤマキマダラヒカゲとサトキマダラヒカゲの差異はわずかである。「北摂の蝶」によれば、北摂地方ではサトキマダラヒカゲの方が普通で、ヤマキマダラヒカゲは山頂しかも500-600m以上の山地に分布の中心があると見られるとある。産地としては、能勢町天王、能勢町剣尾山、能勢町小和田山、猪名川町大野山などで、黒川地域のような標高の低い平地に近い環境で見られたのは興味深い。

ホシミスジとツマグロヒョウモン 「北摂の蝶」では産地が局限され個体数も少ないことになっているが、実際には関西の住宅地付近で数多く見る。これは前者が食草がユキヤナギなど庭の植栽によ

く使われる木になっており、また、後者は観賞用のスマレ類が食草であることによると思われる。黒川地域では前者はわずかに2頭、後者は1頭見られたにとどまる。

サカハチチョウ 九州以北に普通に産するタテハチョウであるが、北摂地域ではその分布が注目されている。「北摂の蝶」によれば、1955年以前はこの地域に観察されておらず、それ以降に観察されるようになったところから、分布拡大説と放蝶説が考えられている。これは、亀岡市と高槻市の山地帯で多く見られるのに対し、能勢地方の記録が散発的であることに依っている。能勢では能勢町天王、能勢町妙見山、豊能町初谷、豊能町青貝山、川西市妙見新滝、川西市笹部などが産地となっているが、能勢町ではほとんど姿を見ることがないと報告⁹⁾もある。特に黒川地域に隣接した豊能町初谷ではかなりの数が観察されているが、近年妙見山周辺での車の排気ガスなどで、初谷の自然が破壊されつつあるので注意していく必要がある。黒川地域での今回の調査では5月12日に1頭のみ採集されている。

ゼフィルス類 ゼフィルス類は6月30日と7月6日にミズイロオナガシジミ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミの3種3頭を見たとどまった。いずれも日中で地上から2-3mのところの木の葉表に止まっていたものである。これらはいずれも都市近郊の雑木林などで普通にいる種であるが、黒川地域も下止々呂美地域も今年は個体数がかなり少なく、また、発生時期に遅れを生じていたようだ。したがって、今回の結果をもって黒川地域のゼフィルスと環境との関係を論ずるには早計であると思われる。

その他 注目されるのは北摂地方全般に広く分布しているオオムラサキが黒川地域でも見られたことで、黒川公民館の横のクヌギの樹液に来ていたものと、公民館の上を飛び回っていたものの2頭が観察された。また、能勢地方は関西では数少ないスジボソヤマキチョウの産地として知られているが、黒川地域でも4月と10月に数頭確認することができた。北摂では広く分布しているが、そ

れほど数の多く見られないトラフシジミが早春にかなりの数をみるることができたことなども目に付いた。

5. 謝 辞

本調査は、兵庫県川西市の依頼を受け、「野生生物を調査研究する会」が行った自然環境調査の一貫としてなされたものである。この場を借りて、調査の機会を与えてくれた同会会長の今西将行氏、川西市教育委員会の牛尾 巧氏、ならびに調査の手ほどきを教えていただいた福原 整氏、西 隆広氏、また、調査報告を発表することをすすめていただいた近藤伸一氏に感謝します。また、調査に協力していただいた押木俊之氏、甲斐康伸氏に感謝します。

<参考文献>

- 1) 大阪昆虫同好会編(1989) 「北摂の蝶」.
- 2) 宝塚市教育委員会(1992) 「宝塚の昆虫 I」.
- 3) 「蝶類採集情報総集編1989~1995所収」、蝶研出版.
- 4) 大阪市立自然史博物館編(1983) 第10回特別展「北摂の自然」解説.
- 5) 小坂利明(1994) 「猪名川流域の蝶」、詩画工房.
- 6) 仲田元亮(1978) 「能勢の昆虫 I」.
- 7) 西 隆広、私信.
- 8) 森地重広(1996) 大阪府能勢町の蝶、蝶研フィールド 11 (11); 4-15 .
- 9) 石井実、広渡俊哉、藤原新也(1995) 「三草山ゼフィルスの森」のチョウ類群集の多様性、*Jpn. J. Environ. Entomol. Zool.* 7(3); 134-146.
- 10) 藤岡知夫(1981) 「日本の蝶」、ニュー・サイエンス社.
- 11) 猪又敏男(1990) 「原色蝶類検索図鑑」、北隆館.

(KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)